

第一講 「死の言葉」

「言霊」と「言忌み」・・・言葉には不思議な力が宿っているとされ、古代、言葉を放てばその通りの事象が起きると信じられていた。よって、不吉な言葉を使うことは避けられた。

「死ぬ」ことを直接示す言葉は避けられ、別の言葉に言い換えられた。婉曲表現として「なくなる・どうにかなる」という意味を持つ言葉が使われる。

失す・身罷る・果敢無くなる・徒になる・むなしくなる  
ともかくもなる・いかにもなる・かひなくなる  
かくる・絶ゆ・絶え果つ・果つ・往ぬ・去ぬ・朽つ

少しニュアンスは変わるが、「おくる(遅る・後る)」があり意味は「死に遅れる・先に死なれる」となる。

Ex 京にて生まれたりし女子、(土佐)国にてはかにうせにしかば

訳 京で生まれていた女の子が、(土佐の)国で急に死んでしまったので

里へ帰り、うちふすこと五、六日して、つひにはかなくなり

訳 実家へ帰り、寝込むこと五、六日で、とうとう死んでしまった

訳 紀友則がみまかりにけるとき詠める

訳 紀友則が亡くなったときに詠んだ歌

あはれとも いふべき人は 思ほえで 身のいたづらになりぬべきかな

訳 かわいそうだと言ってくれそうなのは思い浮かばないで(恋い焦がれたまま)、むなしく死んでしまうのだろうか

入試によく出る意味には「★」マーク付き！

- ①見る (マ行上一)・・・★世話をする  
★結婚する  
会う

「身分の高い女性は親族以外に自分の姿を男性に見せることがなかった。親族以外で見ることができるのは特別な間柄Ⅱ夫。だから『結婚する(関係を結ぶ・妻とする)』の意味を持つ」

※「かしづく」で「大切に世話をする」意

- ②見ず (サ行下二)・・・★結婚させる  
見せる

「親が相手に見せるってことは『結婚させる』ことってなる」

※「見ず(サ行四段)・・・ご覧になる」「見る」の尊敬語だから注意！

- ③見ゆ (ヤ行下二)・・・★見える  
★結婚する  
見せる・思われる

「見ゆの『ゆ』には『受身・自発・可能』の意味がある」

- ④垣間見る (マ行上一)・・・★のぞきみる

「垣根の隙間から男性が気になる女性を見る様子を示した言葉」

- ⑤会ふ・逢ふ (ハ行四段)・・・会う  
★結婚する

- ⑥合ふ (ハ行四段)・・・一つになる  
★似合う  
くしあう

- ⑦あふ・敢ふ (ハ行下二)・・・★堪える  
「特に『あへず』で『くしきれない・我慢できない』の意味で使う。また『あへてく打消』で『けっしてくない』の慣用句となる」

- ⑧念ず (サ変)・・・祈る  
★我慢する

「願いを叶えるためには念を込めて祈るし、我慢もするよね？ そんなイメージ」

※同音に「念誦(ねんず)」もありこれは「経文を唱える」という意

- ① この雀みよ。もの食はせよ

↓この雀の世話をせよ。餌を食べさせよ。

さやうならむ人をこそみめ

↓そのような方をこそ妻としたい

- ② 親王たちにこそはみせ奉らめ

↓親王たちには嫁がせ申し上げるのはよい。

- ③ 月明かければいとよくありさまみゆ

↓月が明るいのでとてもよく有様が見える

いかならん人にもみえて身をも助け

↓どのような人であっても結婚して自分をも生かし

- ④ この男かいまみてけり

↓この男は垣の隙間からこっそり覗き見してしまった

- ⑤ 「旅の御姿ながらおはしたり」と言へば、あひ奉る

↓「旅の御姿のままですらうしやった」というので、お会い申し上げます

- ⑥ 笛の音などあひたるは

↓笛の音色などが調和しているのは

- ⑦ 霜にあへず枯れにし園の菊なれど

↓霜に耐えられず枯れてしまった庭園の菊の花ではあるが

あへて口より外に出ださず

↓決して口外しない

- ⑧ ひたぶるに仏をねんじ奉りて

↓ひたすら仏の名を心中で祈り申し上げて

心さかしき者ねんじて射むとすれども

↓気丈な者が、こらえて射ようとするけれども